

介護支援専門員
アンケート調査集計結果

【調査趣旨】

包括的・継続的ケアマネジメント実践を可能にする環境整備と実践力の向上が図れるよう、現状の課題やニーズを把握し、今後の包括的・継続的ケアマネジメント支援内容について検討するうえでの参考にさせて頂きたく調査を行いました。

※包括的・継続的ケアマネジメント支援とは…

高齢者の生活を長く安心して支えるために、医療・介護・福祉等さまざまな関係機関や人が連携しながら、継続的に支援できるように、地域包括支援センターが中心となり、環境整備や個別ケアマネジメント支援を行う。

【調査方法】

期間：2025年9月9日～2025年9月30日

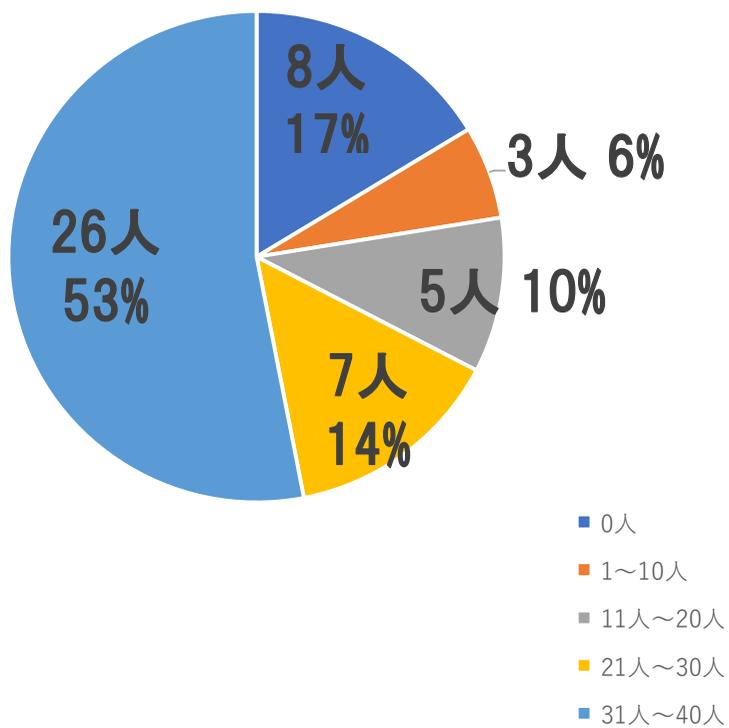
対象：27事業所 72名の介護支援専門員とプランナー

方法：Web回答

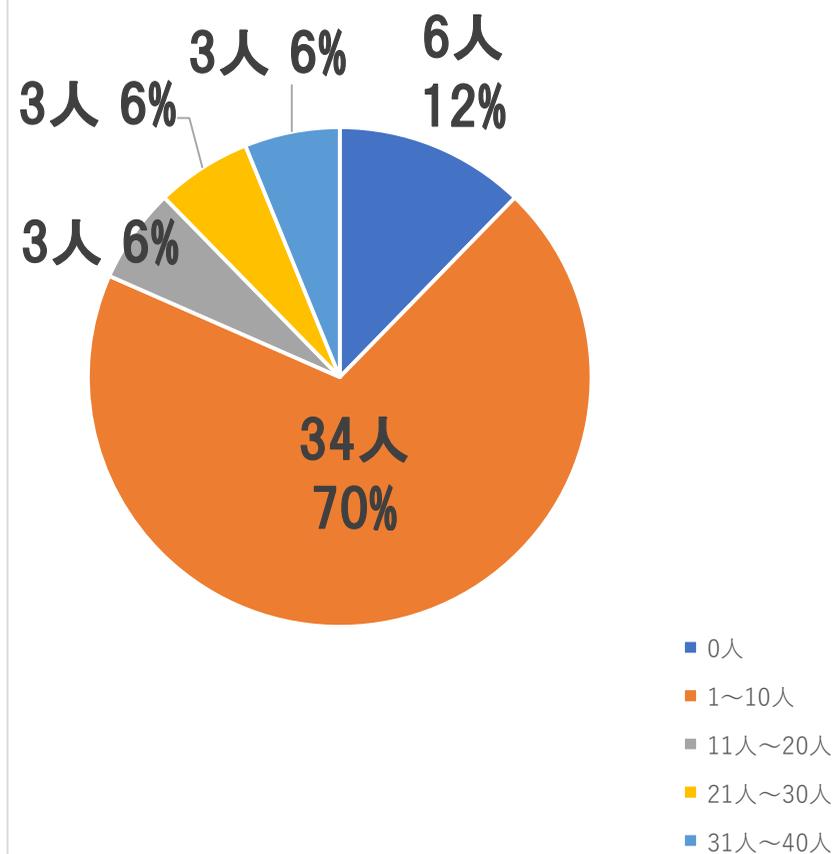
【回答件数】 49件（回答率：68%）

問1 ケアプランの担当利用者数

【要介護】

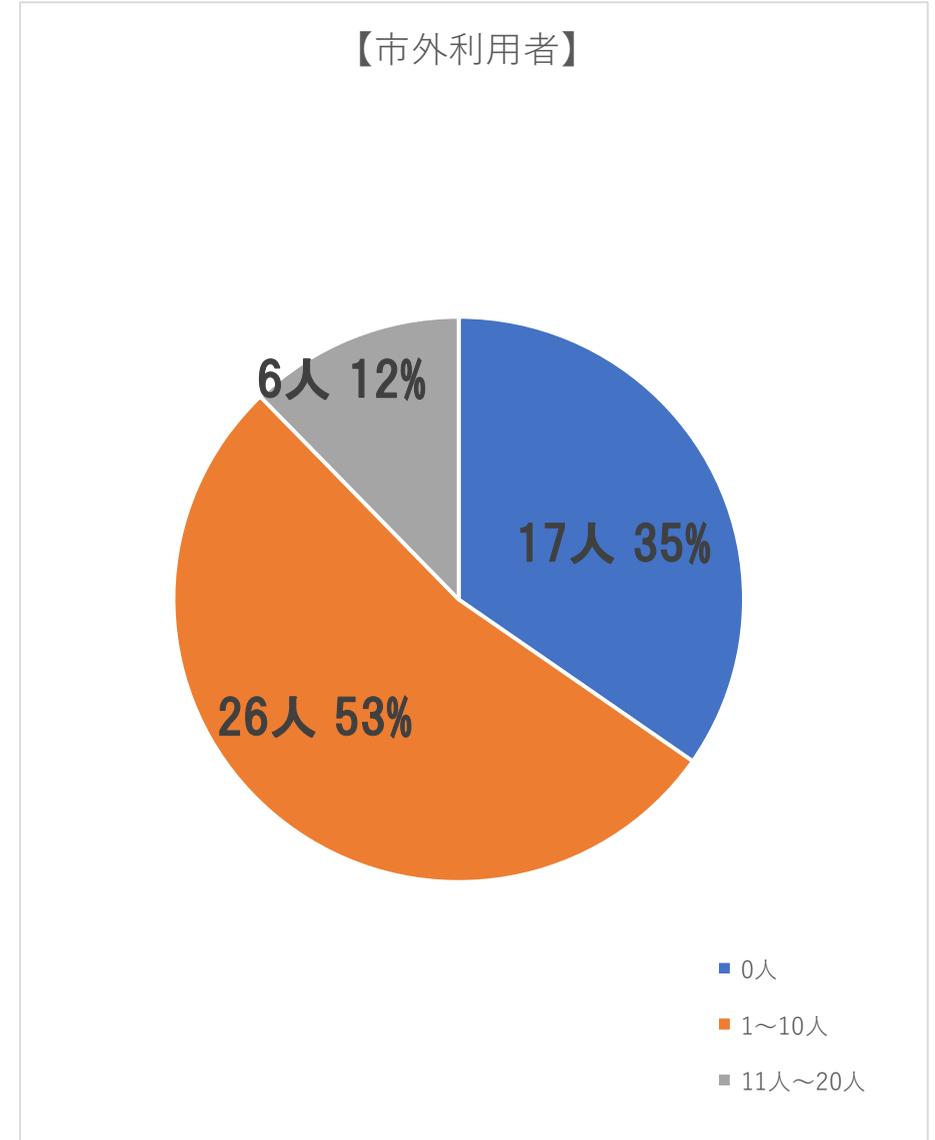
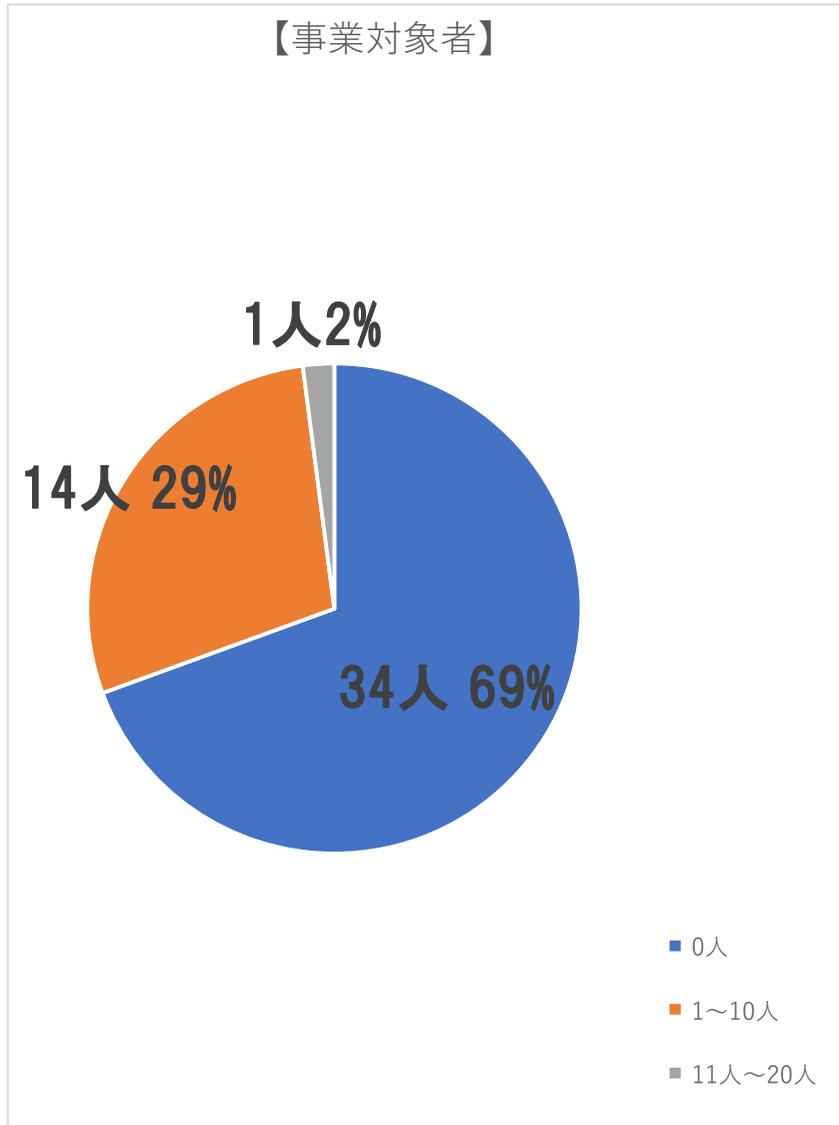


【要支援】

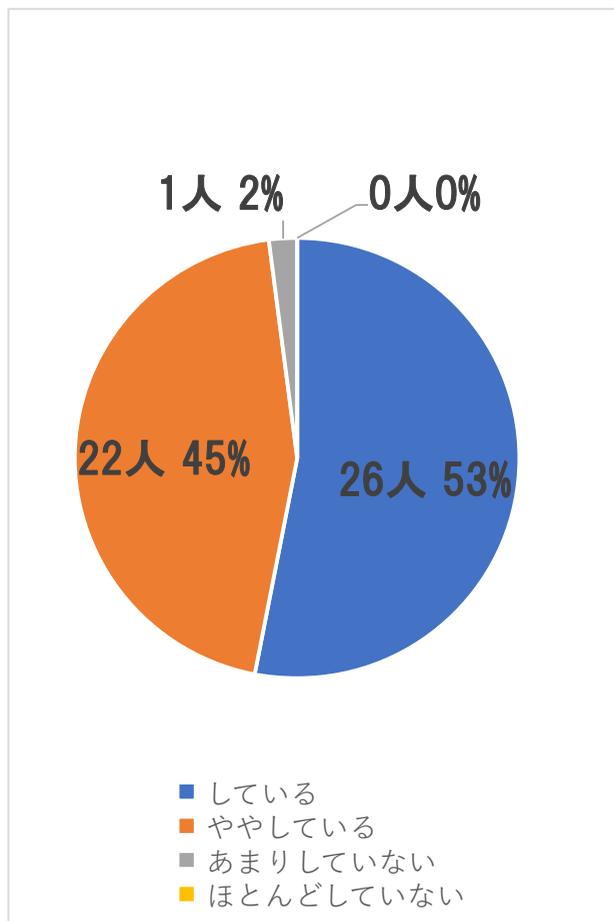


問1 ケアプランの担当利用者数

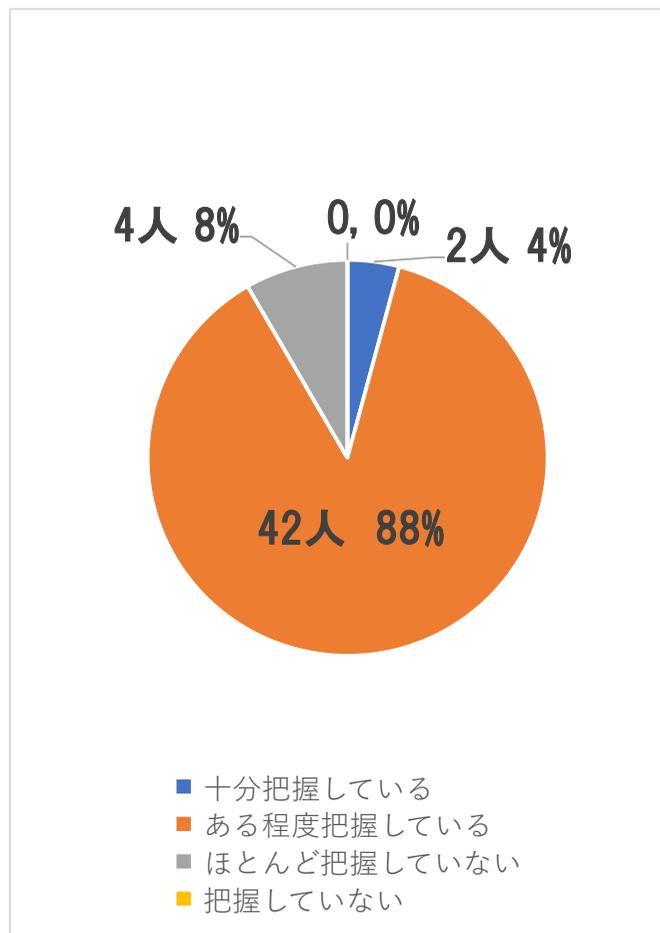
問2 市外の利用者数



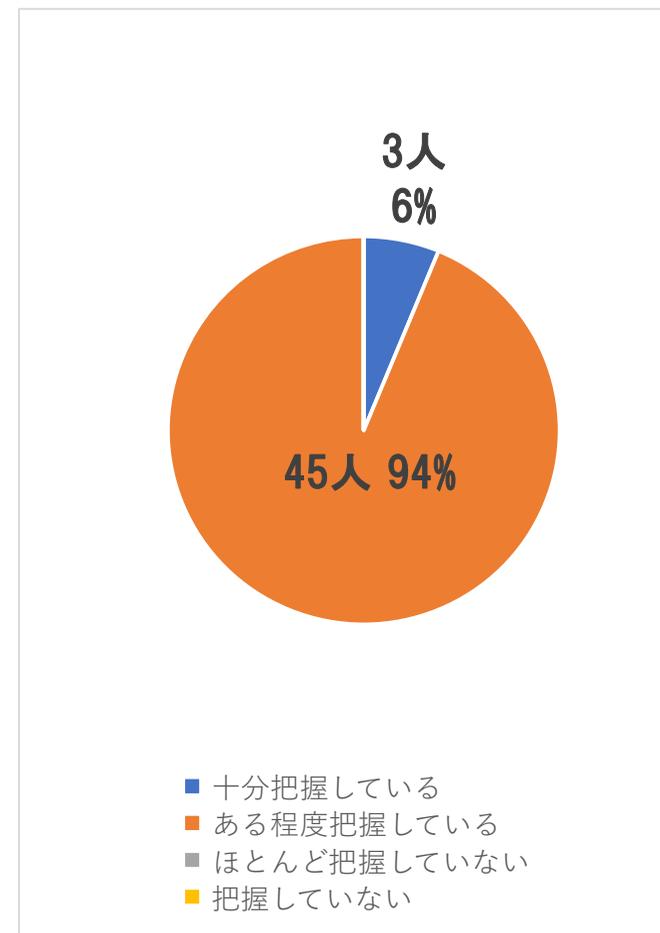
問3 自立支援・重度化防止の視点を意識していますか



問3-1 「している」「ややしている」回答者。利用者本人の強みを把握しているか



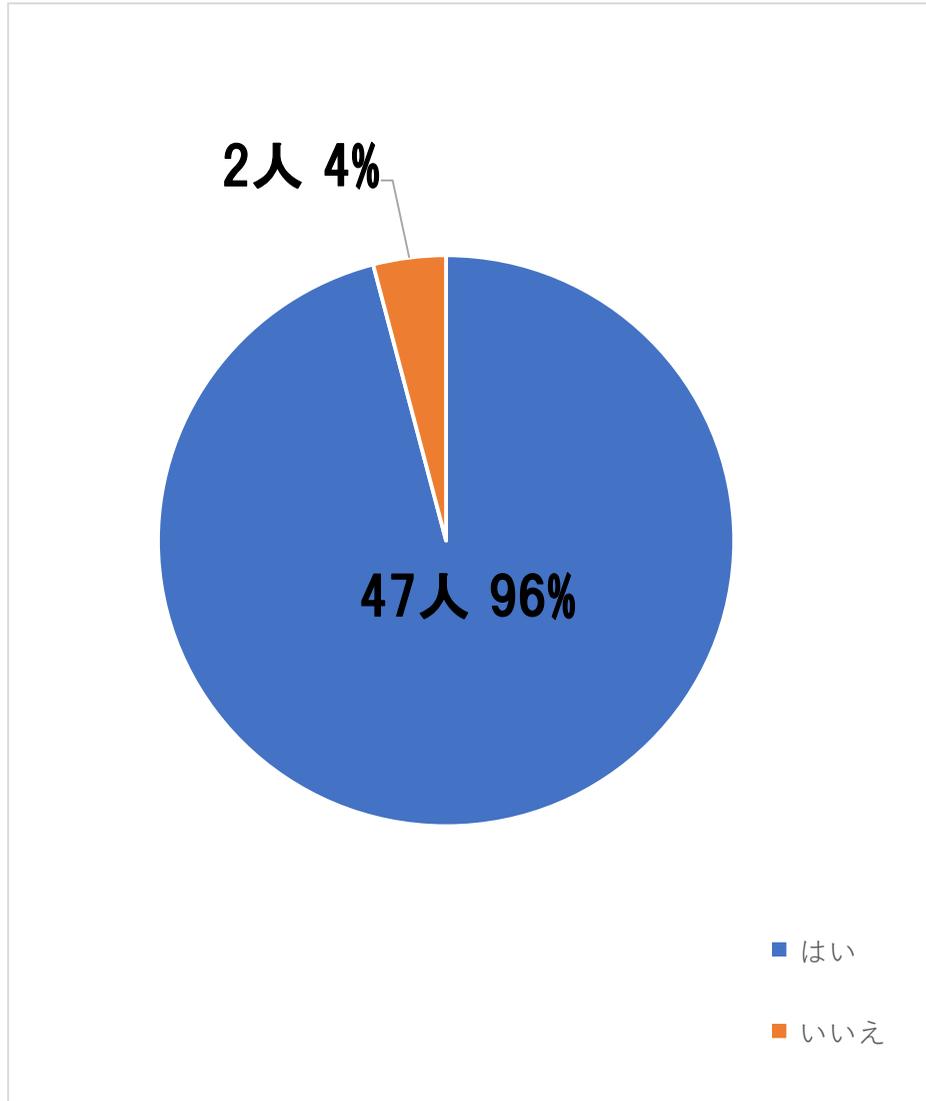
問3-2 「している」「ややしている」回答者。利用者本人の地域との関わりを把握しているか



90%以上の方が、自立支援・重度化防止の視点を意識した支援を行っているという結果であった。

「高齢者が要介護状態になることをできる限り防ぐ(遅らせる)」「要支援・要介護状態になっても、その悪化をできる限り防ぐ」そのために、心身の機能改善だけではなく、地域での活動・参加をバランスよくアプローチできるように環境整備を行って参ります。

問4 見通し(予後予測)や維持改善を意識しマネジメントをしているか



「はい」と回答した方が96%と維持改善について十分意識されているという結果でした。

一方で、介護認定結果データからの分析では40%以上の方が「悪化」という結果となっている。

「悪化」の原因について、今後は分析を進めて参ります。

(エ) 前回二次判定(介護度)と今回二次判定の比較【令和5年度】 (単位:件)

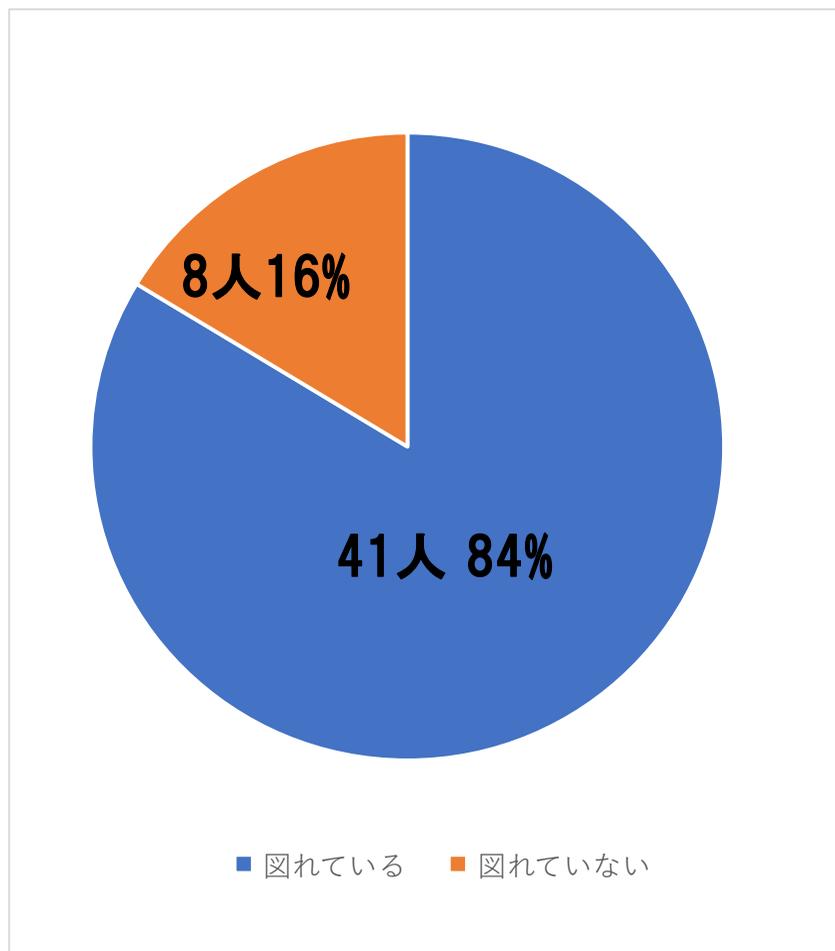
	今回二次判定									合計
	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
前回介護度なし (新規申請)	21 4.1%	146 28.3%	84 16.3%	96 18.6%	61 11.8%	51 9.9%	38 7.4%	19 3.7%	516	
非該当	1 4.3%	7 30.4%	1 4.3%	8 34.8%	2 8.7%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	23	
要支援1	3 0.8%	210 57.5%	40 11.0%	46 12.6%	33 9.0%	21 5.8%	10 2.7%	2 0.5%	365	
要支援2	0 0.0%	30 11.6%	126 48.6%	32 12.4%	36 13.9%	15 5.8%	16 6.2%	4 1.5%	259	
要介護1	0 0.0%	14 3.4%	10 2.4%	211 51.2%	81 19.7%	52 12.6%	32 7.8%	12 2.9%	412	
要介護2	0 0.0%	3 0.9%	21 6.0%	24 6.9%	148 42.5%	88 25.3%	46 13.2%	18 5.2%	348	
要介護3	0 0.0%	3 0.9%	5 1.4%	9 2.6%	29 8.4%	164 47.4%	100 28.9%	36 10.4%	346	
要介護4	0 0.0%	0 0.0%	3 1.0%	5 1.7%	12 4.0%	28 9.4%	180 60.2%	71 23.7%	299	
要介護5	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	1 0.8%	0 0.0%	4 3.4%	30 25.2%	83 69.7%	119	
合計	25 0.9%	413 15.4%	291 10.8%	432 16.1%	402 15.0%	426 15.9%	453 16.9%	245 9.1%	2,687	

※表の見方: ①色つき枠が前回二次判定と今回二次判定の結果が一致している件数とその割合。

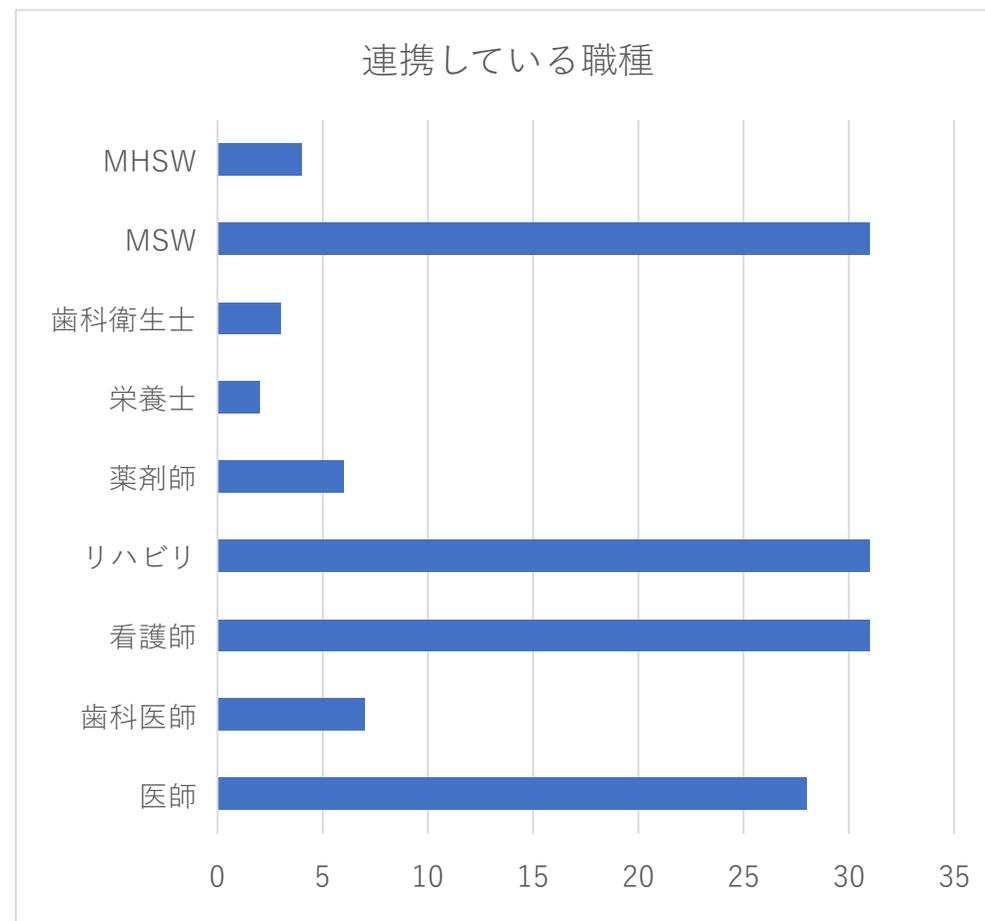
②色つき枠より左側が、前回介護度の結果より改善している件数とその割合。

③色つき枠より右側が、前回介護度の結果より悪化している件数とその割合。

問5 医師・看護師等の医療機関
関係者との連携を図れているか

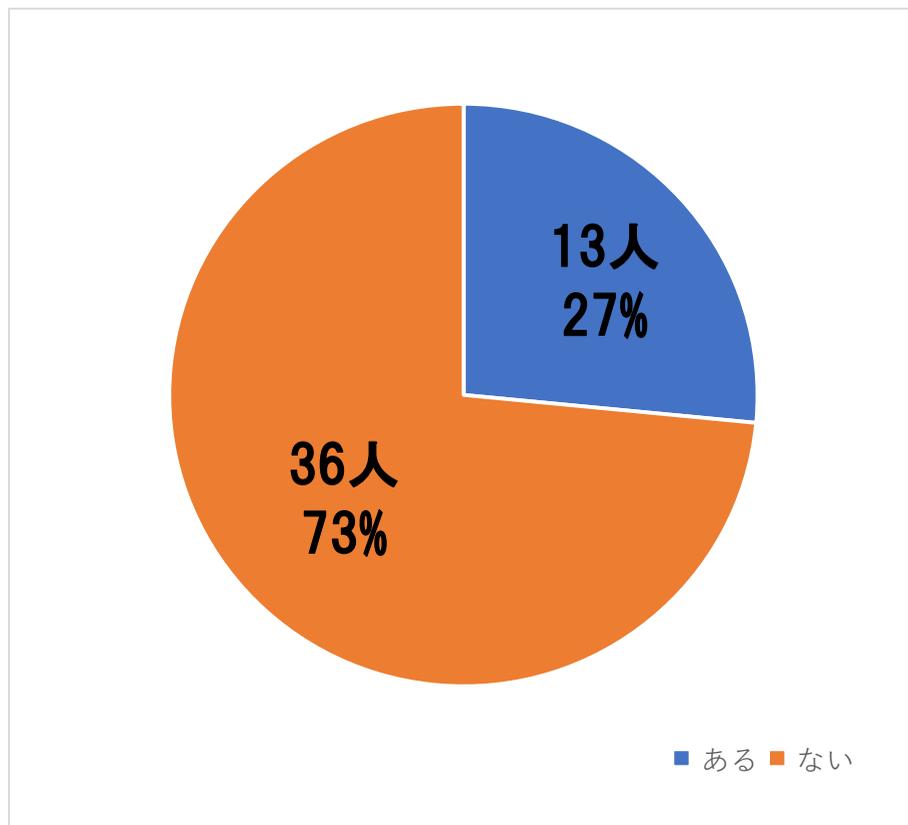


問5 「図れている」回答者
連携が図れている職種

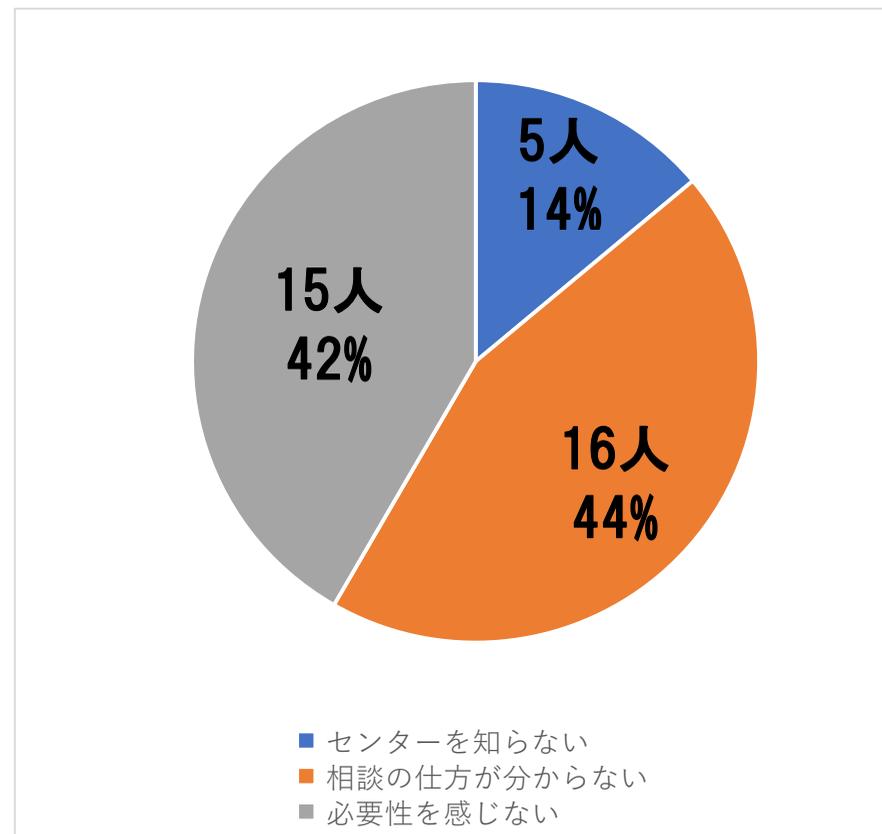


「図れている」が約80%であり、マネジメント過程で他職種とのやりとりが行われているという結果であった。今後は、在宅生活を支援するための情報共有や協力が十分機能しているか、「連携」の中身についても意識を深められ、実践力の向上が図れるよう取り組んで参ります。

問6 やんばる在宅医療・介護連携支援センターに相談をしたことがあるか



問6-1 「ない」回答者
相談をしたことがない理由



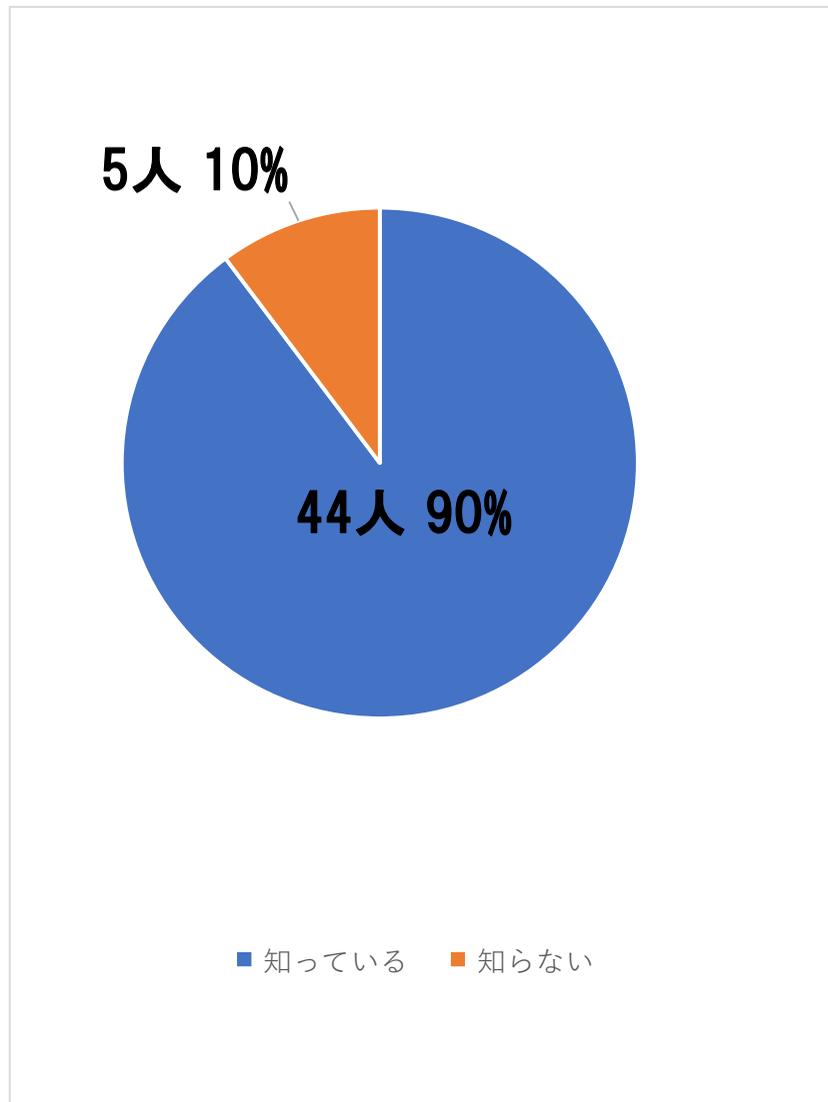
「ない」が約70%。その内、約6割の方が「センターを知らない」や「相談の仕方が分からない」という結果であった。

在宅医療・介護連携の充実を進めるためにも、センターの機能と役割についての周知とコーディネーターとの顔の見える関係作りを進めて参ります。

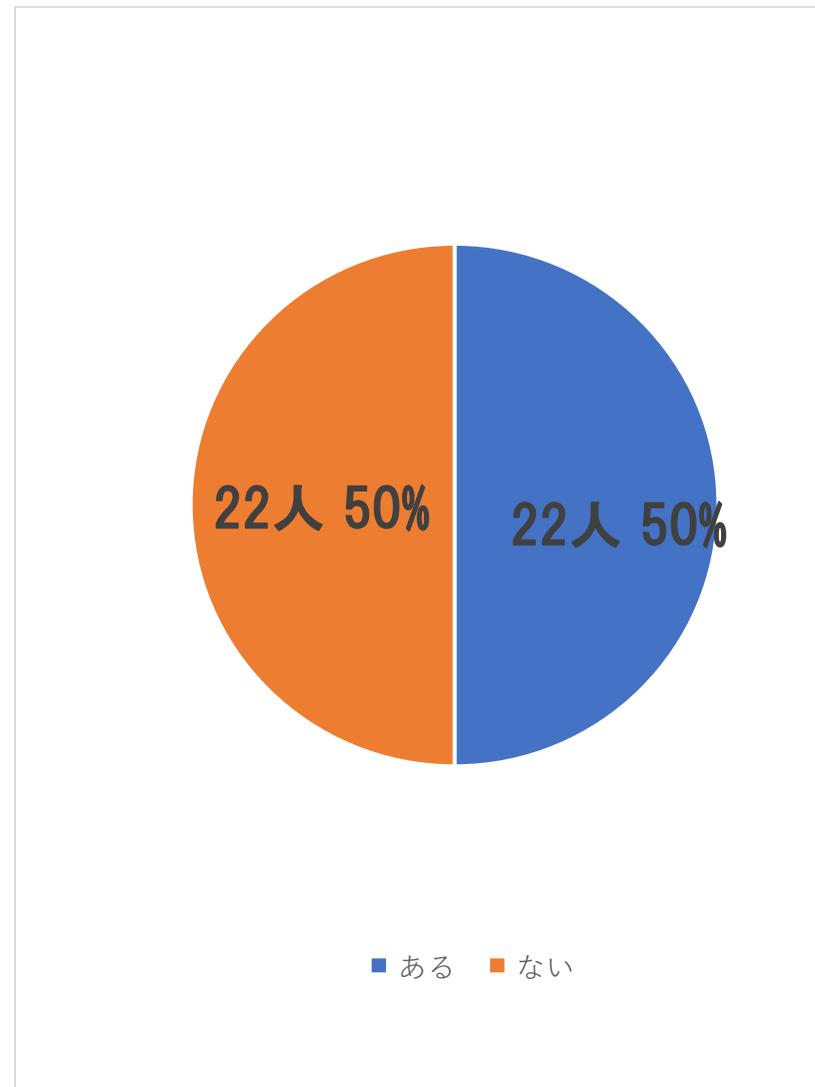
在宅医療・介護連携についてのお問合せ、相談は、

やんばる在宅医療・介護連携支援センター:43-6770 でお受けします。

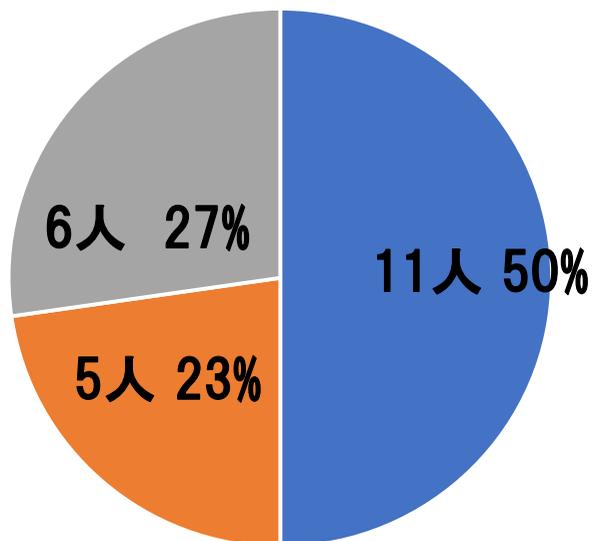
問7 地域リハビリテーション活動支援事業を知っているか



問7-1 「知っている」回答者事業を活用したことがあるか



問7-2 「ない」回答者 活用したことがないのはなぜ？



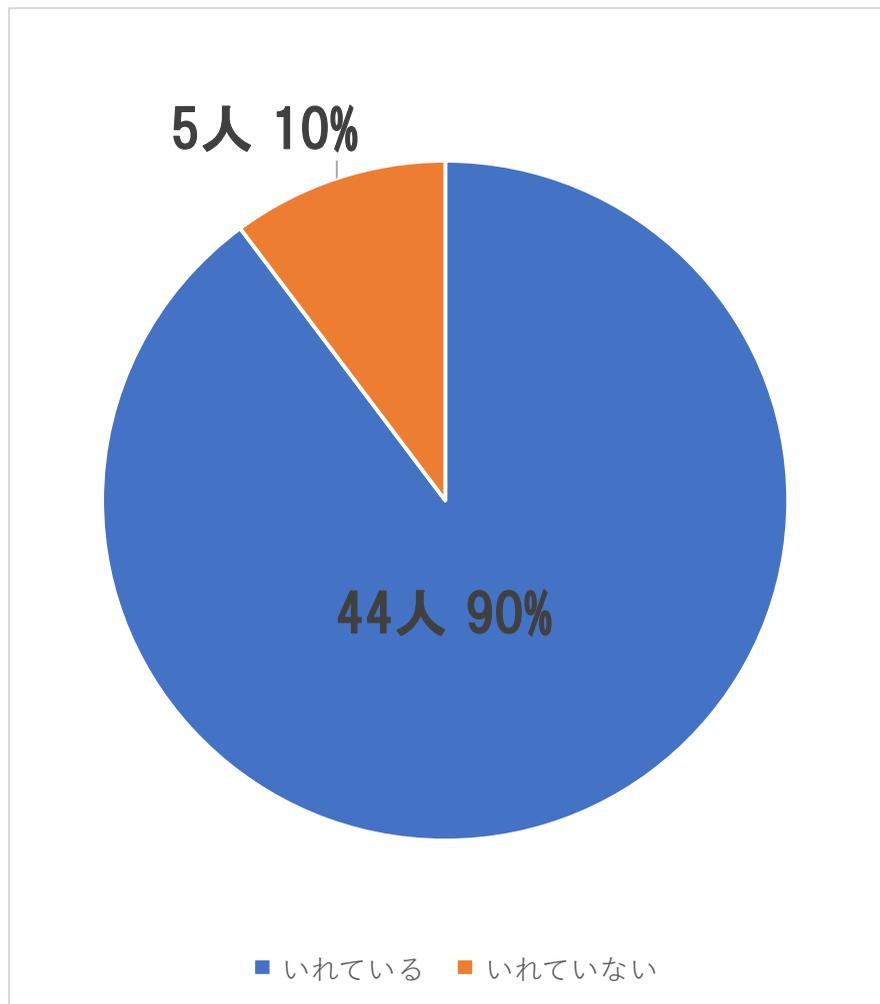
■ 必要性を感じない ■ 内容や活用方法が分からない ■ その他

自立支援、重度化防止におけるリハビリテーション専門職の役割は大きく、単なる機能訓練に留まらず、利用者の生活全体に焦点を当て、本人の「やりたいこと」の実現のため多角的な支援を行うことができます。

リハビリテーション専門職がマネジメントに関わるメリットや専門職の役割等について周知すると共に地域リハビリテーション活動支援事業について分かりやすく伝えられるよう、内容や方法について検討を進めて参ります。

地域リハ事業についての問合せは、
名護市介護長寿課 包括支援係
0980-43-0022 でお受けします。

問8 支援計画に地域資源、インフォーマルサービスを入れていますか

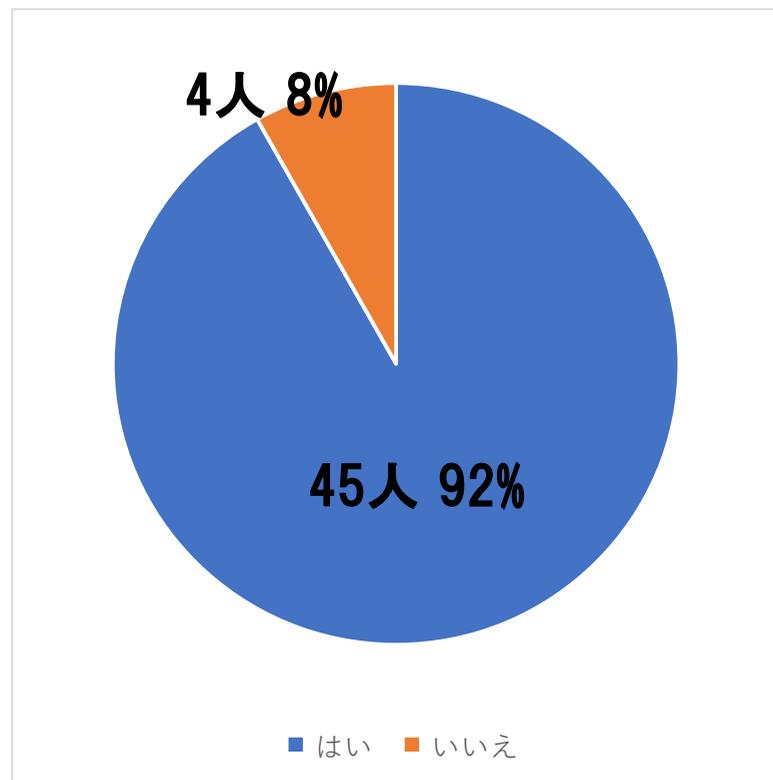


「いれている」と回答した方が90%。

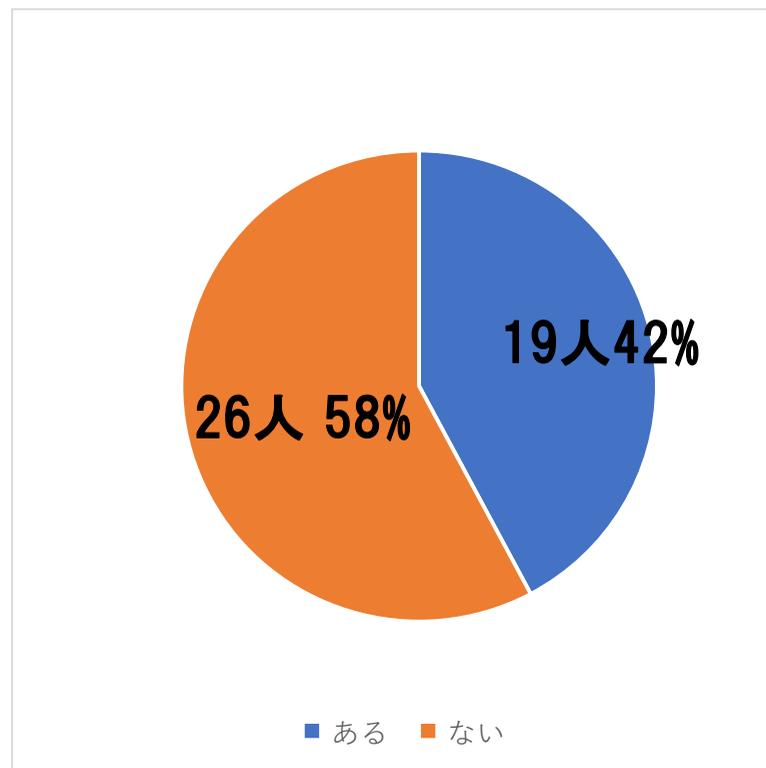
高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するためには、介護保険サービスだけではなく、地域資源であるインフォーマルサービスの活用が不可欠です。

今後もインフォーマルサービスの活用が図れるよう、生活課題と地域資源情報のマッチングが図れるよう、地域資源の発掘や、ネットワーク化に向け、生活支援コーディネーターと共に、取り組んで参ります。

問9 生活支援コーディネーター(SC)を知っていますか



問9-1 「はい」回答者
生活支援コーディネーター(SC)と連携した
ことはあるか

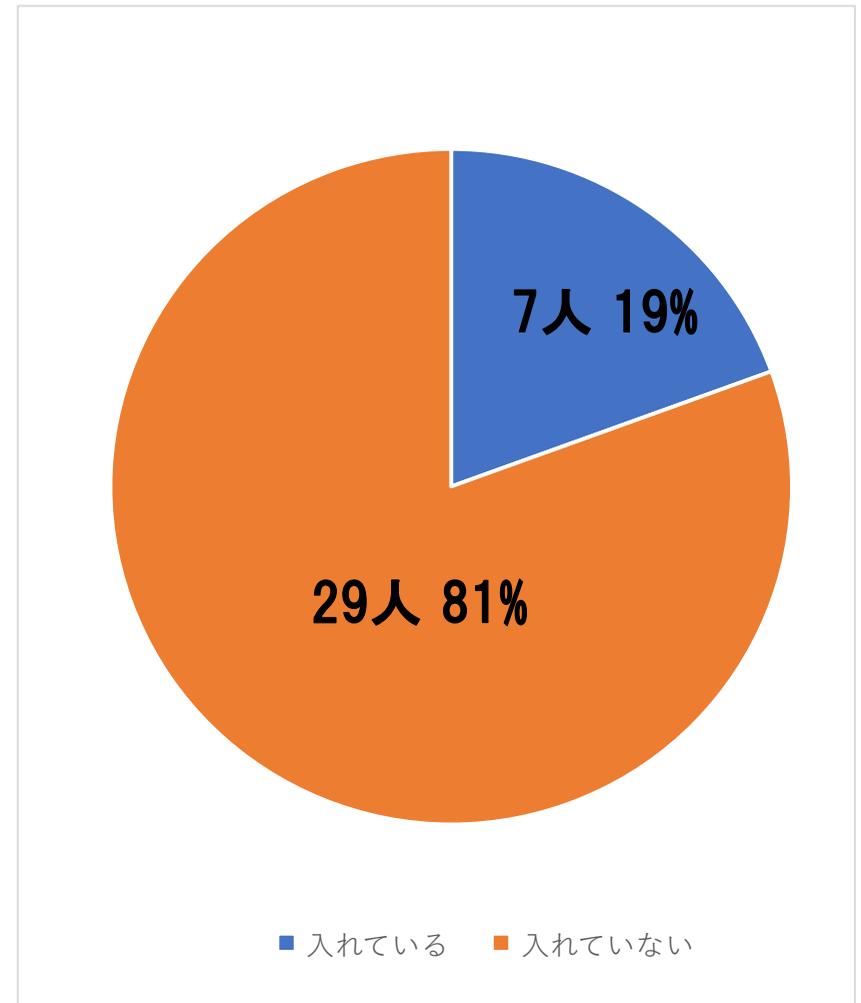
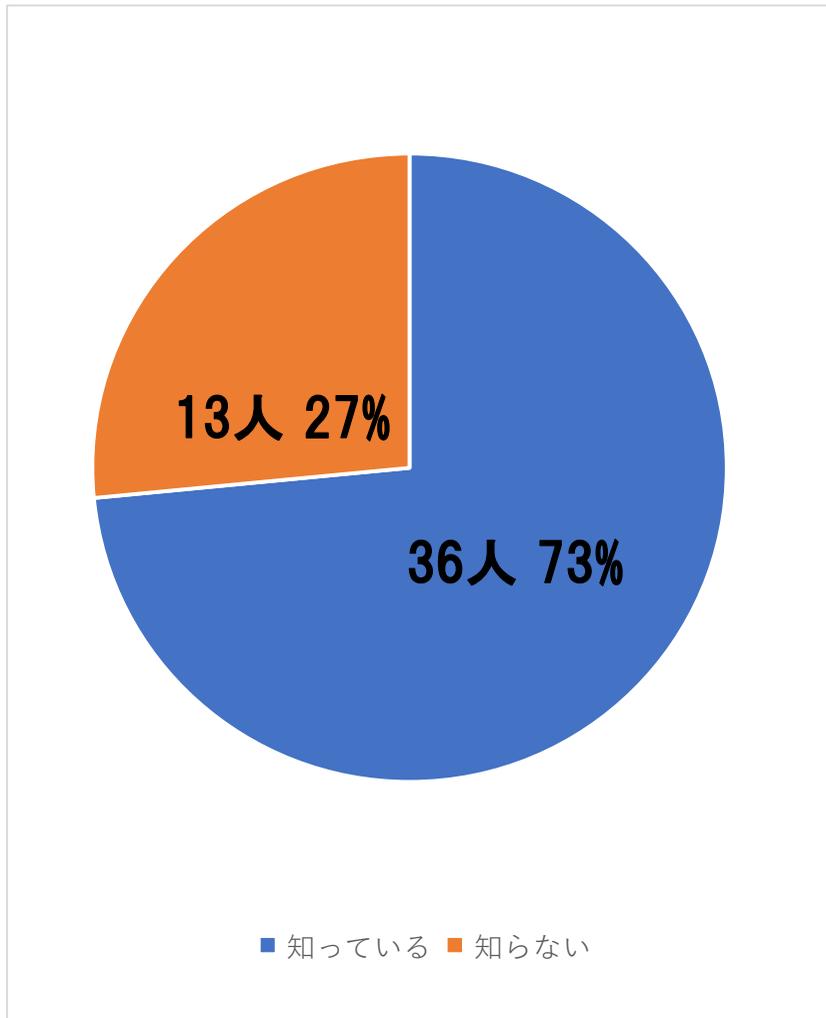


「知っている」が約90%ではあるが、連携をしたことがあると回答した方は約40%となっている。

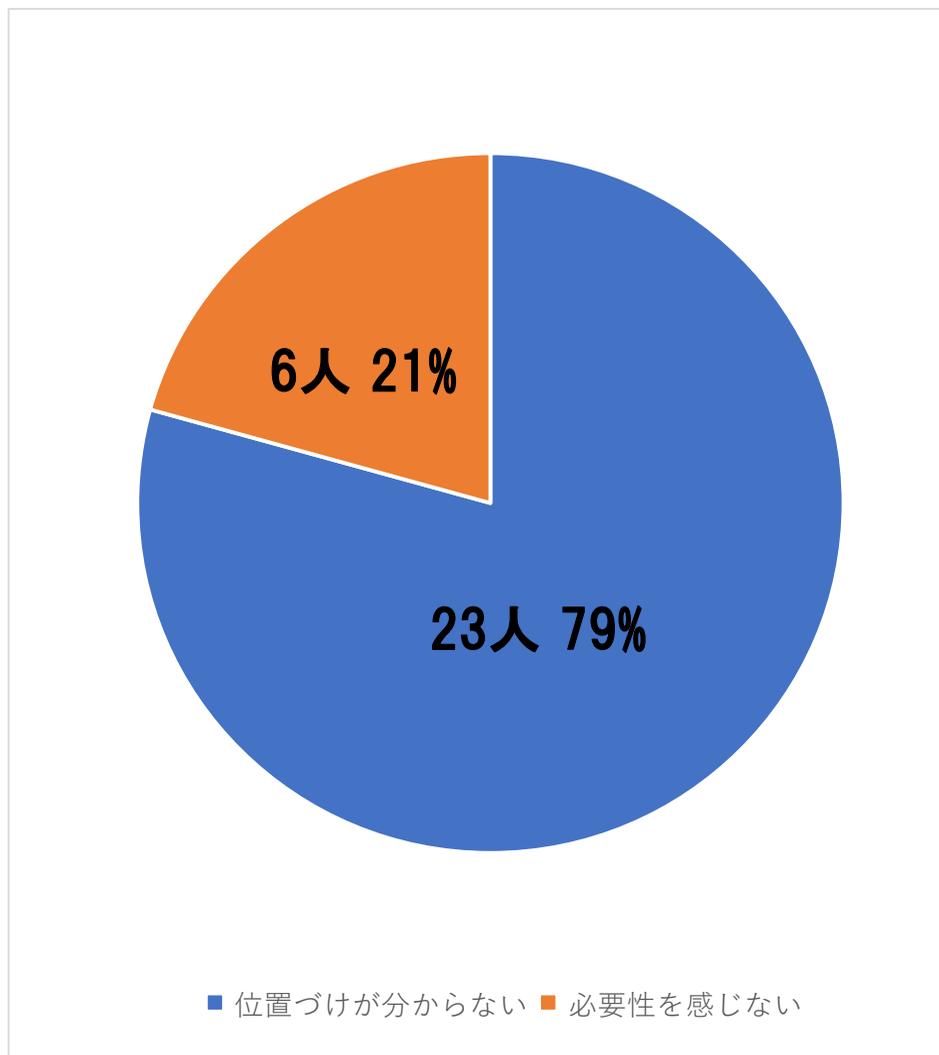
いつまでも「自分らしく」生活するを支援するためにも、マネジメント支援の際に生活支援コーディネーターと連携が重要となるため、自立支援型ケア会議の活用やプランチェックの充実を進め、地域資源についてコーディネーターと連携が図れるようにして参ります。

問10 避難行動要支援者が作成する
「個別避難行動計画」を知っていますか

問10-1 「知っている」回答者
支援計画内容に「個別避難行動計
画」等災害時の対応について入れて
いるか



問10-2 「入っていない」回答者 入っていない理由について



「知っている」が約70%で、そのうち支援計画内容に災害時の対応を入れている方が約20%であった。

台風等の災害に備え、平常時からの準備として、マネジメント過程に災害時に備えた課題分析を加え、ケアプランに災害対策に関する項目を反映させていることにより災害対策を推進することができます。

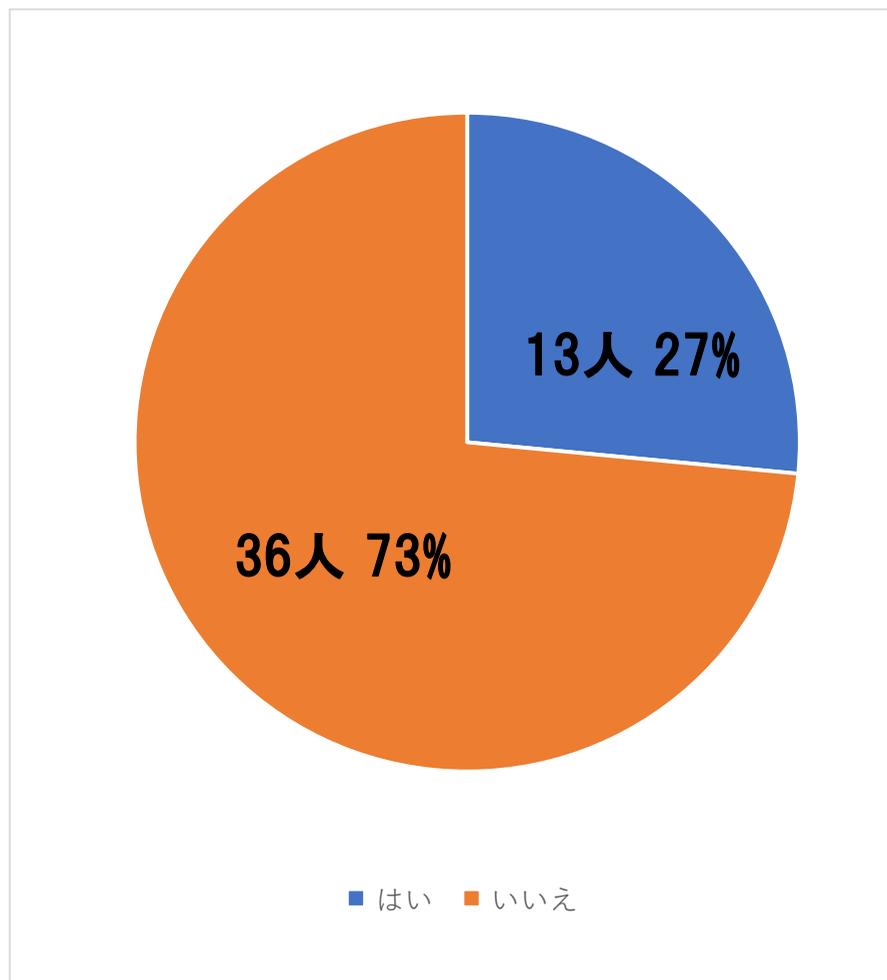
地区自治会や地域包括支援センターとの日頃からの連携も大切となります。

マネジメント過程での災害の備えについて、環境整備、実践力の向上が図れるよう取り組んで参ります。

参考: 災害対応マニュアル

日本介護支援専門員協会出版

問11 災害時に対応が必要なケース(電源確保が必要な医療依存度の高い方)を担当しているか



問11-1 「はい」回答者
該当する人数は

- ・ 1人： 6名
- ・ 2人： 4名
- ・ 3人： 3名

計： 23名

在宅酸素等の医療依存度の高い方は、電源確保や避難行動について、平常時からの備えが重要となります。改めて、災害時の対応が必要か見直しを行って見てください。

地域包括支援センターでは、台風等の災害時には、市との連携・協力のもと、要介護非認定者の単身高齢者世帯、高齢者世帯及び日頃関わりのある要援護高齢者等の避難誘導、安否確認等の業務にあたることとなっておりますので、地域包括支援センターとの情報共有にもご協力お願い致します。

アンケートへのご協力ありがとうございました。
包括的・継続的ケアマネジメント支援の充実が図れるよう今後も
取り組んでまいります。

名護市の高齢者が地域で生き生きと安心して暮らし続けることが
できるよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。